

平成 30 年度

大学院科目等履修生募集要項

聖泉大学大学院看護学研究科

平成30年度 聖泉大学大学院看護学研究科 科目等履修生募集要項

科目等履修生制度は、生涯学習の観点から大学院教育の中で専門的な知識や幅広い教養を深めることを目的としています。履修した科目は本学大学院生と同様に試験を受け合格すれば、単位を修得することができ、本学大学院に入学した場合に既修得単位として認められます。

1 募集人員

若干名

2 出願資格

看護師の資格を取得し（見込みを含む）次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 大学（学校教育法第83条に定める大学）を卒業した者及び平成29年3月卒業見込みの者
- (2) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で看護師の免許に関わる3年以上の実務経験を有する者

3 入学の時期と履修期間

入学の時期は前期4月、後期10月となり、履修期間は1年です。

4 履修科目

履修可能科目一覧に掲載の授業科目のうち、年間に10単位を上限として、履修希望を提出することができます。なお、本学大学院生の履修者がいない授業科目は開講いたしませんのでご注意ください。

5 出願期間及び手続

(1) 出願期間

- ・前期出願の場合：平成30年3月5日(月)から3月16日(金)まで(消印有効)
- ・後期出願の場合：平成30年9月3日(月)から9月14日(金)まで(消印有効)

(2) 提出場所 〒521-1123 滋賀県彦根市肥田町720

聖泉大学 教務課 大学院看護学研究科 担当

(3) 出願手続 下記の書類を取りまとめ、郵送（郵便書留）もしくは持参して下さい。

書 類 等		摘 要
1	履修許可願	履修希望する科目を記載して下さい。
2	履歴書	本学所定の用紙を使用して下さい。写真1枚（出願日前3か月以内に撮影した上半身、正面、脱帽のもの、縦4cm×横3cm、裏面に氏名を記入）を貼り付けて下さい。
3	看護師免許証のコピー※	A4サイズにコピーして下さい。
4	検 定 料	10,000円 振込 ※検定料振込用紙にて銀行窓口で振り込んで下さい。 ※検定料振込証明書（A）は出願書類一式に同封下さい。
5	卒業（修了）証明書 または 卒業（修了）見込証明書※	最終出身看護学校・大学の卒業（修了）証明書または卒業（修了）見込証明書および成績証明書（出願3か月以内に作成されたもの）を厳封して提出して下さい。
6	成 績 証 明 書 ※	

※本学看護学部卒業生、大学院修了生は、書類5、6は提出の必要はありません。

※本学大学院入学試験出願時には、書類3、5、6を提出書類として使用することができます。

※持参の場合の受け付け時間は、平日9:00～17:00までとなります。

6 科目等履修生の選考及び履修許可

- (1) 志願者の選考は、書類審査で行います。
- (2) 選考の結果は、3月下旬もしくは9月下旬に郵送で通知します。

7 入学手続き

選考結果通知が届きましたら、入学申込金、授業料を同封の振込用紙にて銀行窓口で振り込んで下さい。入金を確認でき次第、入学許可証を送付します。

- (1) 入学申込金
10,000 円
- (2) 入学申込金の振込期日
 - ・前期出願の場合:平成30年3月26日(月)～3月30日(金) まで
 - ・後期出願の場合:平成30年9月25日(火)～9月28日(金) まで

8 授業料等

- (1) 授業料
講義 1単位 10,000 円 演習 1単位 15,000 円
- (2) 授業料の振込期日
 - ・前期科目の場合:平成30年4月10日(火) まで
 - ・後期科目の場合:平成30年10月10日(水) まで

※授業料の振込は半期毎もしくは全期分納入のいずれかの選択制となっております。

9 単位の授与

授業科目を履修し、本人の願い出により本学正規学生と同様に試験を受けることができ、合格した場合単位認定します。また、希望者には単位修得証明書を交付します(単位認定時期は3月となります)。

10 その他

- (1) 本学大学院修士課程と同じ履修形態となります。
- (2) 納入した検定料・入学申込金及び授業料は返還しません。
- (3) 履修した授業科目については、本人の請求により履修証明書を交付します。(翌年度4月以降)
- (4) 本制度は本学大学院修士課程科目を先行して履修し、単位修得することが可能となります。
- (5) 科目等履修生には科目等履修生証を発行します。
- (6) 入学後の諸手続きを済ませますと、情報センターの実習室のパソコンの利用が可能となります。(科目等履修生証の提示が必要ですので携帯ください)
- (7) 一般学生と同様に図書館の利用も可能です。(科目等履修生証提示必要)
- (8) 在学証明書、学割証、通学証明書等の発行はできません。
- (9) 本学大学院に入学される場合、修得した単位は修士課程科目の単位として認定します。

履修可能科目一覧（平成30年度）

授 業 科 目 名	単 位	コマ数	授業形態	開講期	担当教員	備考
社会心理学	1	8	講義	前期	布井雅人	
健康運動学	1	15	講義	前期	多胡陽介	
コンサルテーション論	2	15	講義	前期	甘佐京子	※
看護政策論	2	15	講義	前期	木村知子	※
災害看護学	2	15	講義	前期	佐々木裕子、金澤豊	※
看護倫理	2	15	講義	前期	城ヶ端初子	
看護理論	2	15	講義	前期	城ヶ端初子	
国際看護学	2	15	講義	前期	磯邊厚子、角野文彦	※
原書購読Ⅰ	1	8	演習	前期	磯邊厚子	
機能形態学	2	15	講義	後期	石田英實、阿部昌代	※
発達心理学	2	15	講義	後期	高橋啓子	
家族看護学	2	15	講義	後期	古株ひろみ、松本修一	※※
原書購読Ⅱ	1	15	演習	後期	磯邊厚子	
リーダーシップ論	1	8	講義	後期	木村知子、南谷志野	

<注意>

- ①各科目とも履修許可人数は若干名です。
- ②各科目は、諸事情により開講日時・担当教員等が変更になる場合があります。時間割については、3月中旬、9月中旬に決定します。
- ③備考欄に※印がついている科目は隔年開講科目となり、30年度開講科目のため31年度には開講されませんのでご注意下さい。※※は31年度開講科目となります。

授業時間

	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限
開始時刻	9:00	10:40	13:00	14:40	16:20	18:00	19:40
終了時刻	10:30	12:10	14:30	16:10	17:50	19:30	21:10

問い合わせ先

〒521-1123 滋賀県彦根市肥田町720番地
 聖泉大学 教務課 大学院看護学研究科 担当
 TEL (0749) 47-8400
 FAX (0749) 43-2611
 メール kyoumu@seisen.ac.jp

教育目的

本大学院看護学研究科は、病院、医療施設等の看護実践現場において、高い専門知識を備えた「実践力」「マネジメント力」「教育力」「研究能力」を有する看護実践リーダーを育成することを目的とします。

看護学研究科 看護学専攻

合計 31 単位以上修得

特別研究 8 単位

必要な研究指導を受けた上で、修士論文を提出し、修士論文の審査および最終試験に合格

特別研究

6 領域から 1 領域選択し、特論 I、II および演習 6 単位、
他領域の特論 I 2 単位

看護基礎分野	●看護ケア開発領域 特論 I、特論 II、演習	看護実践分野	●発達支援看護学領域 特論 I、特論 II、演習
	●看護教育学領域 特論 I、特論 II、演習		●生活支援看護学領域 特論 I、特論 II、演習
	●看護管理学領域 特論 I、特論 II、演習		●地域・精神保健看護学領域 特論 I、特論 II、演習

必修科目 10 単位以上、選択科目 5 単位以上

共通科目	必修科目	研究方法論 I、研究方法論 II、看護倫理、看護理論、原書講読 I、リーダーシップ論
	選択科目	社会心理学、健康運動学、機能形態学、発達心理学、コンサルテーション論、看護政策論、災害看護学、家族看護学、国際看護学、原書講読 II

共通科目の□は、30 年度科目等履修生の履修可能科目

授 業 計 画 (シラバス)

【 授 業 科 目 名 】	社会心理学		
【 担 当 教 員 名 】	布井雅人		
【開催時期】 1年次前期	【授業形態】 講義	【必修/選択】 選択	【単位数】 1単位

■概要

人は高度な社会性を有しており、社会の中で他者と関わり合いながら生活している。そのような社会の中に存在する「こころ」に関する事象を取り上げ、それらに関する研究知見を紹介する。

■授業のねらい

我々の日常生活内の様々な場面に存在する疑問を、心理学的観点から捉え、考えることが出来るようになることが本授業のねらいである。

■授業の到達目標

「こころ」を考える際には、様々な観点から、様々な可能性に考えを巡らせる必要がある。授業内で扱う知見を参考に、身の周りのこころに対しても、様々な可能性を考えることができ、それらを明らかにするための研究方法を考えることが出来るようになることを目標とする。

回	授業計画	備考
1	非言語コミュニケーション（1）表情	
2	非言語コミュニケーション（2）視線・音声	
3	集団作業における効率	
4	リーダーシップ	
5	ステレオタイプ	
6	内集団ひいき	
7	文化とこころ	
8	選好	

■成績評価の方法

授業の参加状況、課題レポートにより総合的に評価する。

■教科書・テキスト

特に指定しない。

■参考書等

授業内で適宜紹介する。

■履修上の注意点（履修要件）

特になし。

■授業外学習の指示

授業内で紹介する知見を参考に、身の周りに存在する様々なこころについての疑問を挙げていくこと。

■オフィスアワー

授業後対応、もしくは学生の都合に合わせて随時 mail 対応します。

■担当教員からのメッセージ

人が存在するところには、必ず「こころ」が存在します。つまり、こころは我々に最も身近な学問領域と言えます。当然、看護現場にも多くの「こころ」が存在しています。本授業で取り上げる「こころ」も、特別なこころではなく、日常のかつ身近なこころです。なので、みなさんが日常生活や看護現場で感じているこころの疑問についても、取り上げられるものは積極的に授業内で取り上げていきたいと考えています。

■担当教員の連絡先

nunoi-m@seisen.ac.jp

授 業 計 画 (シラバス)			
【 授 業 科 目 名 】	健康運動学		
【 担 当 教 員 名 】	多胡陽介		
【開催時期】2年次 前期	【授業形態】演習	【必修/選択】選択	【単位数】 1単位
<p>■概要 健康を増進する運動について、科学的に立証された効果的な方法で行わなければ、トレーニング効果が得られず、安全性に問題が出てくる。この授業では、生活習慣病や要介護の原因となる疾病の予防・改善を中心に、科学的知見に基づいたより効果的で安全な健康運動の方法や知識を概説する。</p> <p>■授業のねらい 生活習慣病や要介護の原因となる疾病の予防・改善を中心に、科学的知見に基づいたより効果的で安全な健康運動の方法や知識を理解する。</p> <p>■授業の到達目標 1) 加齢や疾病、生活環境や生活習慣に伴う身体活動量低下がもたらす健康障害について理解する。 2) 心身の健康維持・増進、および生活習慣病や要介護の原因となる疾病の予防・改善として安全で有効な運動処方と運動指導の理論を理解し、実践力と応用力を修得する。</p>			
回	授業計画	備考	
1	リエンテーション（ねらい、評価等）、健康寿命の延伸と運動実践、体力とは		
2	メンタルヘルスと運動・レクリエーション、ニュースポーツの活用		
3	体操・ストレッチングの方法と計画①（ストレッチングの種類と特性）		
4	体操・ストレッチングの方法と計画②（肩こりや腰痛への対応）		
5	生活習慣病と運動・身体活動の効果・目標値		
6	有酸素性運動の方法と計画①（種目の選択、心拍数の活用など）		
7	有酸素性運動の方法と計画②（インターバル・ウォーキングの効果）		
8	ロコモティブ・シンドロームの概念とその予防、骨粗鬆症と運動の効果		
9	レジスタンス運動の方法と計画①（種目の選択、RMなど）		
10	レジスタンス運動の方法と計画②（地域における実践例）		
11	認知症予防と運動①（有酸素性運動とレジスタンス運動による効果）		
12	認知症予防と運動②（二重課題運動の可能性）		
13	子どもの体力低下と運動遊び		
14	体力測定の意義と評価		
15	授業全体の振り返り・まとめ		
<p>■成績評価の方法 期末レポート（50%）、平常点「小レポート、実技技能」（50%）</p> <p>■教科書・テキスト 健康・運動の科学、田口貞義、文光堂</p> <p>■参考書等 高齢者向け運動指導、日本フィットネス協会</p> <p>■履修上の注意点（履修要件） 講義とともに運動を伴う演習を行います。</p> <p>■授業外学習の指示 日頃より運動やスポーツ、身体活動のエビデンスを収集しておくこと</p> <p>■オフィスアワー 金曜日以外の平日および授業の担当時間外</p> <p>■担当教員からのメッセージ 健康寿命を延ばし、生活習慣病などを予防するための効果的な運動方法について学び考え、地域の健康づくりに貢献していきましょう。</p> <p>■担当教員の連絡先 tago-y@seisen.ac.jp</p>			

授 業 計 画 (シラバス)

【 授 業 科 目 名 】	コンサルテーション論 (平成 30 年度開講)		
【 担 当 教 員 名 】	甘佐京子		
【開催時期】 1年次前期	【授業形態】 講義	【必修/選択】 選択	【単位数】 2単位
<p>■概要 コンサルテーションの定義、目的、タイプ、プロセス、評価方法及び有用な相談プロセスが共有展開できるための方法論等を論じ、医療の対象者及び専門職が直面する課題や困難・問題に対処するための基礎能力を養う。</p> <p>■授業のねらい 対人関係を基盤とする専門職者として、コンサルテーションの基本的原則や実践方法を身につけることが、職業上の能力拡大に必ずつながる。普段おこなっている様々な相談業務にも、理論的な背景がありそれをシステム化していくことで、看護の専門性をより高めていくことをねらいとする。</p> <p>■授業の到達目標 1. コンサルテーションの定義、目的・プロセスについて理解できる。 2. 医療の対象者及び専門職に対するコンサルテーションの基本的な実践能力を身につける。</p>			
回	授業計画	備考 (担当教員)	
1	コンサルテーションの概念		
2	援助関係における心理力動		
3	積極的質問と聞き取り		
4	コンサルテーションにおけるクライアントの概念		
5	コンサルテーションのプロセス①		
6	コンサルテーションのプロセス②		
7	コンサルテーションにおける介入①		
8	コンサルテーションにおける介入②		
9	コンサルテーションにおける介入③		
10	コンサルテーションにおける介入④		
11	コンサルテーションの実際(事例検討)		
12	コンサルテーションの実際(事例検討)		
13	コンサルテーションの実際(事例検討)		
14	看護コンサルテーションの課題(グループワーク)		
15	看護コンサルテーションの課題(グループワーク)		
<p>■成績評価の方法 レポートおよび参加状況から評価する。</p> <p>■教科書・テキスト E. H. Schein 「プロセス・コンサルテーション」 白桃書房</p> <p>■参考書等 宮本真巳「感性を磨く技法4 面接技法から学ぶ」日本看護協会出版会 信田さよ子「アディクションアプローチ」</p> <p>■履修上の注意点 (履修要件) 特になし</p> <p>■授業外学習の指示 テキストを基に、担当を決めてプレゼンテーションを実施。それに先駆けて文献検索や資料作成をしておくこと。また、担当者以外も必ず予習を行い質問等の準備をしておくこと。</p> <p>■オフィスアワー 授業前後に対応</p> <p>■担当教員からのメッセージ コンサルテーションは対人関係を伴う職種に従事する者には必要な知識です。この講義で身につけた知識・技術は、必ず皆さんのこれからの役立つと確信しています。</p> <p>■担当教員の連絡先 amasa.k@nurse.usp.ac.jp</p>			

授 業 計 画 (シラバス)			
【 授 業 科 目 名 】	看護政策論 (平成 30 年度開講)		
【 担 当 教 員 名 】	木村知子		
【開催時期】 2 年次前期	【授業形態】 講義 演習	【必修/選択】 選択	【単位数】 2 単位
<p>■概要 保健医療福祉の動向を踏まえ、政策と政策決定プロセスについて概説する。特に看護制度と関連する政策課題について、看護行政における政策活動や政策的な働きかけの方法を具体的に説明する。 看護サービスに関する将来設計、看護職の政策的役割を探求する。</p> <p>■授業のねらい 近年における保健医療福祉の動向を理解すること、政策と政策決定プロセスに関する基本的行動を理解することは、看護管理者として重要である。 看護を提供するにあたって、看護職の政策的役割を探求することで、看護についての視野を広げる。</p> <p>■授業の到達目標 1. 保健医療福祉の動向と看護政策の動向と課題について理解できる。 2. 看護における政策決定プロセスを理解できる。 3. 看護行政と職能団体の活動や実際、課題が理解できる。 4. 自身の立場から看護政策への提言ができる。</p>			
回	授業計画	備考 (担当教員)	
1	医療政策・看護政策とは	木村知子	
2	看護関連諸法	木村知子	
3. 4	政策過程・決定プロセス	木村知子	
5	看護職能団体の活動 (滋賀県看護連盟)	特別講師	
6	看護職能団体の活動 (滋賀県看護協会)	特別講師	
7. 8	看護行政の実際 (滋賀県健康医療福祉部)	特別講師	
9. 10	議員活動	特別講師	
11. 12	政策活動の実際	特別講師 (予定)	
13. 14	各自の立場から政策提言を考える	木村知子	
15	まとめ	木村知子	
<p>■成績評価の方法 授業でのディスカッション、プレゼンテーション、レポート課題から総合的に評価する。</p> <p>■教科書・テキスト 見藤隆子、石田 昌宏、大串正樹、北浦 暁子、伊勢田 暁子：看護職者のための政策過程入門 日本看護協会出版会 2007</p> <p>■参考書等 野村陽子：看護制度と政策、法政大学出版局 2015 他適宜紹介する。</p> <p>■履修上の注意点 (履修要件) 7-10 回は、平日昼間の授業となります (日程は、授業当初に伝えます)。</p> <p>■授業外学習の指示 各自の立場から、政策として提言できることを理論立てて準備して下さい。</p> <p>■オフィスアワー 水曜日 17 時以降</p> <p>■担当教員からのメッセージ 看護が政策的な役割を果たしていることを認識し、看護サービスを提供する立場からの提言を期待します。</p> <p>■担当教員の連絡先 kimura-t@seisen.ac.jp.</p>			

授 業 計 画 (シラバス)

【 授 業 科 目 名 】	災害看護学		
【 担 当 教 員 名 】	金澤 豊、佐々木裕子		
【開催時期】 2年次前期	【授業形態】 講義	【必修/選択】 選択	【単位数】 2単位

■概要

国内外の災害動向、救護活動の実際について学ぶ。災害に対する知識と災害が人々の健康や生活に与える影響と災害看護の対象である被災者の健康問題と、フェーズに応じた災害時救急医療・看護、心のケア、災害時保健指導について学修する。(オムニバス方式)

(金澤 豊)

災害の定義と種類、被災者のこころの変化、災害サイクルによる支援活動の変化とその支援について理解する。

(非常勤講師)

災害発生時の医療、看護、要援護者のトリアージについて理解する。

■授業のねらい

災害の理解や災害看護に必要な知識、理論、技術の修得を目指す。

■授業の到達目標

1. 災害の特徴や人々の生活、環境に与える影響が理解できる。
2. 災害看護の対象者である被災者の特徴、災害看護の役割、課題が理解できる。

回	授業計画	備考
1	災害の定義と種類	金澤 豊
2	近年の災害発生と被災状況	金澤 豊
3	災害の規模、時期、地域による特徴	金澤 豊
4	災害と被災者のこころの変化	金澤 豊
5	災害サイクルによる支援活動の変化	金澤 豊
6	災害看護の実際	金澤 豊
7～8	防災計画	金澤 豊
9	災害医療 災害看護	金澤 豊
10～12	災害時要配慮者のトリアージ	佐々木裕子
13	災害時要配慮者と現地支援者の支援	佐々木裕子
14～15	障害を持った人、高齢者への対応	佐々木裕子

■履修条件

特になし

■成績評価の方法・基準

課題レポート 50%、プレゼンテーション 30%、討論への参加態度 20%

■教科書・テキスト

適宜指示する

■参考書等

適宜指示する

■授業外学習の指示

各所属先の災害マニュアルおよび在住する地域防災計画について学習し、課題報告を求める。

■オフィスアワー

授業の前後

■担当教員からのメッセージ

主体的に参加すること

■担当教員の連絡先

講義開始時に周知する

授 業 計 画 (シラバス)

【 授 業 科 目 名 】	看護倫理		
【 担 当 教 員 名 】	城ヶ端初子		
【開催時期】 1年次前期	【授業形態】 講義	【必修/選択】 必修	【単位数】 2単位
<p>■授業の概要 現代の保健医療の中で、看護専門職としての看護活動の場で、遭遇するさまざまな倫理的問題やジレンマの解決方法を探求する。これを果たすために、個人の尊重を基礎に、生命倫理、医療倫理、看護倫理の基礎的な知識を学び、専門職者としての規律や責務を守り、看護援助者としての倫理的な支援のあり方を修得する。</p> <p>■授業のねらい 看護場面においては、倫理的問題も多々あり、看護職は専門職として、その問題を発見し解決方法をさぐり、具体的な行動につなげる能力が期待されている。また、看護研究の実践能力も求められている。そこで本稿では、看護職として倫理的問題に対応できる方法論および看護研究における倫理についての知識・技術を身につけることを学習のねらいとする。</p> <p>■授業の到達目標 学生のもつ関心のある倫理的課題について、倫理の原則や倫理的意思決定モデルを用いて課題の所在を明確にし、課題の対応を考えることができる。</p> <p>■授業スケジュール</p>			
回	授業計画	備考	
1	オリエンテーション 看護倫理についての基礎知識の整理(課題レポート1) ※シラバスを事前に読む、看護倫理にかかわる身近な出来事をまとめておく		
2	看護倫理へのアプローチ ※「徳」の倫理、原則の原理を日常の生活や看護業務の中から抽出し整理しておく		
3	臨床にあるジレンマと看護倫理 倫理的判断と看護原則 ※看護におけるジレンマについて整理しておく (体験例を含む)		
4	看護情報と守秘義務 インフォームドコンセントと看護者の役割 ※看護情報とは何か、守秘義務とは何か、その概念を整理しておく		
5	さまざまな看護活動と倫理 ※看護倫理に関係する重要な用語を整理し、臨床で経験した科における倫理を整理しておく		
6	看護専門職組織の役割と倫理綱領(課題レポート2) ※日本看護協会の「看護者の倫理綱領」について予習しておく		
7	看護実践における倫理的知識の活用 (ディスカッションを含む) ※臨床での倫理的問題のある場面を体験から取りあげ整理しておく		
8	倫理的意思決定とそのステップ ※倫理的ジレンマに直面した時の解決方法を段階的に考える方策を考えておく		
9	看護倫理問題解決モデル(1) ※問題解決法について整理しておく		
10	看護倫理問題解決モデル(2) ※さまざまな問題を倫理モデルを活用して解決する具体的な方法を整理しておく		
11・12	プレゼンテーション「臨床における倫理的問題の解決法」(事例)(課題レポート3) ※臨床で体験した倫理的問題のある事例をまとめ発表の準備をする		
13	看護研究における倫理(1) ※研究不正に関する新聞ニュースを収集し整理しておく		
14	看護研究における倫理(2)		
15	まとめ (最終レポート4)		
<p>■成績評価の方法・基準 課題レポート20%、プレゼンテーション40%、最終レポート20%、授業への参加度20%</p> <p>■教科書・テキスト 城ヶ端初子編著「実践に生かす看護倫理」久美出版、2015 その他、必要時、参考文献を提示する。</p> <p>■参考書等 サラ T クライ他 牛田範子他訳「看護実践の倫理」日本看護協会出版会 2007 黒木登志夫「研究不正」中公新書、2016</p> <p>■授業外学習の指示 身近な事例を看護倫理につなげて考察する。</p> <p>■オフィスアワー 木曜日3時限(12:10~14:30) 研究室</p> <p>■担当教員の連絡先 城ヶ端初子 E-mail jougah-h@seisen.ac.jp</p>			

授 業 計 画 (シラバス)

【 授 業 科 目 名 】	看護理論		
【 担 当 教 員 名 】	城ヶ端初子		
【開催時期】 1年次前期	【授業形態】 講義	【必修/選択】 必修	【単位数】 2単位

■授業の概要

国内外における看護理論や関連する理論の概要を学び、また、理論と看護現象との関係について把握し、これからの理論の発展や理論構築方法について探求する。看護理論の概念と発展過程をふまえ、国内外の代表的な理論家による理論について概観し、理論の特徴を理解し、臨床への活用方法を知る。

さらに、現在活用されている理論を把握し、プレゼンテーションできる力を養う。

■授業のねらい

看護理論は看護実践の基盤となる重要な部分である。しかし、臨床では敬遠される傾向にある。

この状況から本講では、自己の看護実践を振りかえり、看護観を見つめなおすことを学習のスタートとする。

さらに国内外の主な看護理論を把握し、実践における活用方法を探究することを学習のねらいとする。

■授業の到達目標

1. 看護の変遷を通して看護理論の発展過程を知る。
2. 国外の看護理論家の理論を探求し、全体像を把握する。
3. 国内の看護理論家の理論を探求し、全体像を把握する。
4. プレゼンテーションが実施できる。
5. 看護理論構築の方法を知る。

■授業スケジュール

回	授業計画	備考
1	オリエンテーション ※看護理論とは何か？(課題レポート1)シラバスを事前に読む、自己の看護観をまとめ提出する	
2	看護理論の発展過程 ※看護理論の発展過程の概要をテキストで読み整理しておく	
3	看護哲学 ナイチンゲール看護理論(1) ※ナイチンゲールの生きた時代背景を整理しておく	
4	看護哲学 ナイチンゲール看護理論(2) ※「看護覚え書」を事前に読み概要を整理しておく	
5	国外の看護理論家の理論を把握する(1) ※ニード論 ヘンダーソン ニードとは何か、概念を整理しておく	
6	国外の看護理論家の理論を把握する(2) ※人間関係論 トラベルビー 人間関係とは何か、概念を整理しておく	
7	国外の看護理論家の理論を把握する(3) ※システム論 ロイ 「適応」の概念を整理しておく	
8	国外の看護理論家の理論を把握する(4) ※ケア・ケアリング論レイニンガー 「ケア」「ケアリング」とは何か、概念について整理しておく	
9	国外の看護理論家の理論を把握する(5) ※ローパー・ローガン・ティアニー看護理論 イギリスで生まれた看護理論とアメリカで発展した理論を比較してみる	
10	国内の看護理論家の理論を把握する(1) ※わが国の初期の看護の定義 わが国の看護の定義、理論のはじまりを整理しておく	
11	国内の看護理論家の理論を把握する(2) ※科学的看護論 薄井坦子 人間の認識とは何か概念を整理しておく	
12・13	プレゼンテーション (課題レポート2) ※自己の選択した看護理論を整理まとめプレゼンの準備をする	
14	看護理論構築の試み ※理論構築、理論開発等について概要を整理する	
15	まとめ (最終レポート3)	

■成績評価の方法・基準

課題レポート 20%、プレゼンテーション 40%、最終レポート 20%、授業への参加度 20%

■教科書・テキスト

城ヶ端初子編著「実践に生かす看護理論」サイオ出版 2013

その他、必要時、参考文献を提示する。

■参考書等

1. 筒井真優美編著「看護理論家の業績と理論評価」医学書院 2015

2. Lorrain Olszewski Walker 他、中木高夫・川崎修一訳「看護における理論構築の方法」医学書院 2008

■授業外学習の指示

自分の看護観をまとめ、各々の看護理論が実践にどのように反映できたか考察する。

■オフィスアワー

木曜日 3時限 (12:10~14:30)

■担当教員の連絡先

城ヶ端初子 E-mail jougah-h@seisen.ac.jp

授 業 計 画 (シラバス)

【 授 業 科 目 名 】	国際看護学 (平成 30 年度開講)		
【 担 当 教 員 名 】	磯邊厚子、角野文彦		
【開催時期】 2 年次前期	【授業形態】 講義	【必修/選択】 選択	【単位数】 2 単位
<p>■概要 様々な国の人々の生活や健康状況を理解し、グローバル・ヘルスの課題を考察する(オムニバス方式)。 国際的な視野で人々の健康問題を捉え、保健制度や政策及び多様な民族、文化を抱合した看護の展開方法を考察する(磯邊厚子)。 国際協力の理念と概要及びJICAケニアでの活動について学ぶ。また、開発途上国における特徴的な疾病と対策について医療・看護の果たす役割について考察する(角野文彦)。</p> <p>■授業のねらい 世界の人々の健康課題、貧困・難民問題など、グローバル・ヘルスにおける看護活動の必要性を学修する。</p> <p>■授業の到達目標 国際的な視野で人々の生活や健康を捉え、人々の健康問題や課題を見出し、解決していくための調整力や貢献力を学修する。保健制度や政策、健康水準、文化・習慣などを抱合した国際保健・看護の展開方法を学修する。グループワークも取り入れる。</p>			
回	授業計画	備考 (担当教員)	
1	国際看護とは 地球規模でみた人々の健康問題 なぜ世界の人々の健康を考えるのか、なぜ国際看護なのかを学ぶ。 ※世界の国別保健指標などをみておく。亡数など医療の問題を人間開発報告書から調べておく。	磯邊厚子	
2	国際看護の課題と活動の場 国家間、民間、NGO、国際緊急援助など看護の活動の場を学ぶ。 ※国際看護活動の関連文献をみておく。	磯邊厚子	
3	国際協力とは 国際協力の理念と概要 国際協力の歴史、政府開発援助(ODA-JICA)、UNICEF、WHO などの役割について学ぶ。 ※関連文献をみておく。	角野文彦	
4~5	開発途上国の人々の健康問題と対策 世界規模で発生する感染症及び対策を学ぶ。	角野文彦	
6~7	JICA ケニアでの活動 海外での医療活動をアフリカの現場での事例で学ぶ。	角野文彦	
8	母子保健、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 母子の健康課題を女性の人権やジェンダーの観点から理解する。事例；スリランカの母子保健	磯邊厚子	
9	国際看護活動方法Ⅰ 地域看護の視点から プライマリヘルスケア・ヘルスプロモーションの概念を理解し、疾病予防、住民主体の活動を学ぶ。	磯邊厚子	
10	国際看護活動方法Ⅱ 病院看護の視点から 国際協力の現場での病院看護の実際、看護活動の基本と留意点を学ぶ。	磯邊厚子	
11	国際協力での看護活動の実際 看護教育プロジェクト ODAにおける技術協力について、看護教育プロジェクト(スリランカ)の例を学ぶ。	磯邊厚子	
12	国境を超えた人々との交流や協働、在日外国人医療、難民支援など グローバルな課題の中で様々な人々との交流や、難民支援の現場での活動を学ぶ。 ※難民とは、調べておく。	磯邊厚子	
13	海外学術調査・研究、基本と留意点 海外での研究活動の意義と留意点、異文化、伝統的価値観を尊重した活動を学ぶ。	磯邊厚子	
14	事例検討：グループワーク 途上国の母子保健の課題へのグループワークを行う。	磯邊厚子	
15	事例グループ発表 総括 グループワークでの発表、意見交換を行う。	磯邊厚子	
<p>■成績評価の方法 授業への参加、事例演習、プレゼンテーションから評価します。</p> <p>■教科書・テキスト 適宜プリント配布します。</p> <p>■参考書等 UNDP 国連開発計画 人間開発報告書, Nursing in the World, 国際看護・国際保健など適宜紹介します。</p> <p>■履修上の注意点(履修要件) 国際的な情報や文献に興味をもち、積極的な授業参加に努めます。</p> <p>■授業外学習の指示 適宜提示します。</p> <p>■オフィスアワー 授業後対応、もしくは学生の都合に合わせて随時 mail 対応します。</p> <p>■担当教員からのメッセージ 開発途上国→先進国の健康問題など幅広い看護活動を学びます。</p> <p>■担当教員の連絡先 isobe-a@seisen.ac.jp</p>			

授 業 計 画 (シラバス)

【 授 業 科 目 名 】	原書講読 I		
【 担 当 教 員 名 】	磯邊厚子		
【開催時期】 1年次前期	【授業形態】 講義	【必修/選択】 必修	【単位数】 1単位
<p>■概要 海外の医療や看護、各専門領域におけるトピックス、看護実践に役立つ看護理論の文献を読み解く。</p> <p>■授業のねらい ナイチンゲール著の「NOTES ON NURSING-WHAT IT IS, AND WHAT IT IS NOT」の書かれた時代や背景を知るとともに、ナイチンゲールの思想、看護観、看護の定義、看護の本質を追及、深化させる。</p> <p>■授業の到達目標 1. 第1章から第10章までを各自が選択し、担当した章を可能な範囲で和訳する。 2. 看護理論から看護の専門性、看護独自の機能をとらえていく。 3. 学生同士でディスカッションを行い、現代看護に生かすべく理論的視野を広げる。</p>			
回	授業計画	備考	
1	オリエンテーション 海外雑誌の紹介、Medline の活用 ※本学図書館にある海外雑誌の紹介を行い、専門領域の知見を広げる。		
2	ナイチンゲール看護論「NOTES ON NURSING」 前書き ※序文 PREFACE、Introductory から導入する。 ※各章の担当を学生同士で決めるが、(担当だけでなく)全員が予習をしておく。		
3	ナイチンゲール看護論「NOTES ON NURSING」 1-2章 ※I-Ventilation and Warming, II-Health of Houses を訳しながら、学生同士で内容の意味を共有化しながら進める。		
4	ナイチンゲール看護論「NOTES ON NURSING」 3-4章 ※III-Petty Management, IV-Noise		
5	ナイチンゲール看護論「NOTES ON NURSING」 5-6章 ※V-Variety, VI-Taking food		
6	ナイチンゲール看護論「NOTES ON NURSING」 7-8章 ※VII-What Food, VIII-Bed and Bedding		
7	ナイチンゲール看護論「NOTES ON NURSING」 9-10章 ※IX-Light, X-Cleanliness of Rooms and Walls		
8	まとめ ※文献から得られた内容と各自の研究テーマの関連性について発表する。		
<p>■成績評価の方法 平常点 (100%) 授業への参加状況から総合的に評価します。</p> <p>■教科書・テキスト 「NOTES ON NURSING-WHAT IT IS, AND WHAT IT IS NOT」 Florence Nightingale, Cambridge University Press. ISBN978-1-108-02061-9. (本学図書館に所蔵)</p> <p>■参考書等 適宜紹介します。</p> <p>■履修上の注意点 (履修要件) なし</p> <p>■授業外学習の指示 ナイチンゲール看護論の各自担当した章の内容の要約、単語調べをして、授業に臨みます。</p> <p>■オフィスアワー 授業後対応、もしくは学生の都合に合わせて随時 mail 対応します。</p> <p>■担当教員からのメッセージ 辞書を用意し、課題について予習して参加します。</p> <p>■担当教員の連絡先: mail; isobe-a@seisen.ac.jp</p>			

授 業 計 画 (シラバス)			
【 授 業 科 目 名 】	機能形態学		
【 担 当 教 員 名 】	石田英實、阿部昌代		
【開催時期】1 年次後期	【授業形態】講義	【必修/選択】選択	【単位数】2 単位
<p>■概要</p> <p>日常生活は多様な動作や運動により支えられているが、運動系に支障が生じると普通の生活が著しく損なわれる。このような事態を避けること、また支障が生じたとしても、本来の日常生活に速やかに戻ることが肝要とされる。したがって運動系に関わる障害の予防や看護には、運動系の構造と機能についての十分な知識を持ち、新たな研究も必要とされる。</p> <p>この講義では動作・運動と深く関わる四肢と体軸の骨格・関節構造、また筋と関節の相互作用について、解剖学、運動学、運動力学、運動工学などの視点から考究し、この分野を通じて看護実践の向上や看護学の発展に貢献できる人材の育成を目指す。</p> <p>■授業のねらい</p> <p>テキスト、参考書を中心に、講義、討論、発表などを行い、身体の構造と機能を、関節に基盤をおいて基礎的理解を深め、当該する研究論文にも接し、その上で最新のロボットやパワースーツなど応用面の理解にもつなげる。</p> <p>■授業の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脊柱、四肢の構造と機能についての機能形態学的問題を意欲的、論理的、実践的に考究できる。 2. 歩行の動態を運動学、バイオメカニクス、運動工学などの視点から考究でき、転倒や骨折の予防・防止の方策を理論的、実験的に考究できる。 			
回	授業計画	備考 (担当教員)	
1	日常生活における多様な動作と運動	石田英實	
2	身体の動作・運動と運動系の関連	石田英實	
3	運動学と運動力学	阿部昌代	
4	運動分析の方法	阿部昌代	
5	関節の基本構造と機能、および身体の力源としての筋	阿部昌代	
6	上肢の関節構造、筋と関節の相互作用 1 肩の複合体	阿部昌代	
7	上肢の関節構造、筋と関節の相互作用 2 肘・前腕・手の複合体、中手と指節複合体	阿部昌代	
8	体軸骨格の骨・関節構造と局所的運動学	阿部昌代	
9	体軸骨格の筋と関節の相互作用	阿部昌代	
10	下肢の関節構造、筋・関節の相互作用 1 股関節と膝関節	阿部昌代	
11	下肢の関節構造、筋・関節の相互作用 2 足関節と足根・中足・趾骨複合体	阿部昌代	
12	歩行の運動学	阿部昌代	
13	歩行のバイオメカニクス	阿部昌代	
14	パワースーツやロボットの援用	阿部昌代	
15	転倒・骨折の予防方法	阿部昌代	
<p>■成績評価の方法</p> <p>授業参加状況、課題レポート、発表により総合的に評価する。</p> <p>■教科書・テキスト</p> <p>嶋田 智明、平田総一郎訳、D. ニューマン著「筋骨格系のキネシオロジー」医歯薬出版、2005、ISBN4-263-21287-8</p> <p>■参考書等</p> <p>金子公有、福永哲夫著「バイオメカニクス—身体運動の科学的基礎—」杏林書院、2006、ISBN4-7644-1069-9</p> <p>■履修上の注意点（履修要件）</p> <p>なし</p> <p>■授業外学習の指示</p> <p>講義に対する予習と復習、それに出題された課題を専門学雑誌なども参考にしてみよう。また、リハビリテーションセンターなどを見学し、動作と運動分析の実際を見ることなどに授業外学習として約 60 時間以上を充てることが望まれる。</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>授業前後にて対応</p> <p>■担当教員からのメッセージ</p> <p>広く関心を持ち、最も興味を抱いたテーマは、深く掘り下げるのが肝要かと思われます。</p> <p>■担当教員の連絡先</p> <p>石田 lect103s@seisen.ac.jp、 阿部 lect407z@seisen.ac.jp</p>			

授 業 計 画 (シラバス)

【 授 業 科 目 名 】	発達心理学		
【 担 当 教 員 名 】	高橋啓子		
【開催時期】 1年次後期	【授業形態】 講義	【必修/選択】 選択	【単位数】 2単位
<p>■概要 人の胎児期から死に至るまでの生涯を、発達とはなにか、発達課題とはなにかというテーマを基本におきながら生得的個人差、多様な社会環境との関係、臨床心理などの視点や角度から学修する。</p> <p>■授業のねらい ①出生前発達と新生児の発達経過を理解する②乳幼児期と児童期の発達課題を理解する③青年期の発達の連続性と段階性を再考し理解する④成人期の安定性と変化について理解する⑤個の変化と環境(社会)の影響について考察する。</p> <p>■授業の到達目標 人生のスタートとしての乳幼児期には、知覚・記憶・言語の獲得などの発達課題の中に、個人の心の基本的な特徴や人との関係性から発展的に獲得していく傾向など大きな示唆に富んでいる。年代をたどりながら、発達の病理とはなにかを社会の現状や支援リソースを学びながら、「心理学」という領域から人間の「生涯発達」について自分の考えをまとめる。</p>			
回	授業計画	備考 (担当教員)	
1	発達の基礎 発達心理学の論点		
2	出生前発達と新生児		
3	乳幼児期 ①身体的発達		
4	乳幼児期 ②ピアジェの理論と現在の考え方		
5	乳幼児期 ③環境要因としての家族・地域		
6	児童期の発達 集団・学習		
7	発達障害とは ①基本的な理解		
8	発達障害とは ②知能とは何か 検査方法		
9	思春期の発達と臨床 愛着障害とは		
10	成人期の発達 ①前期 アイデンティティの形成		
11	成人期の発達 ②中期 個人差と社会		
12	発達の病理 パーソナリティ障害とは 心理臨床における支援		
13	中・高齢期における家族の変容と適応		
14	中・高齢期のメンタルヘルスと環境		
15	カウンセリングと心理療法～こころの健康とはなにか～		
<p>■成績評価の方法 授業参加状況 プレゼンテーション 研究レポート</p> <p>■教科書・テキスト プリント対応</p> <p>■参考書等 「実験で学ぶ発達心理学」等適宜紹介する。「マイヤーズ心理学」西村書店</p> <p>■履修上の注意点(履修要件) 教科書で当日授業予定部分までを予習しておくこと。</p> <p>■授業外学習の指示 参考図書と視聴覚教材を指定。授業外に学習しておくこと。</p> <p>■オフィスアワー 毎週木曜日午後 1~5 個人研究室</p> <p>■担当教員からのメッセージ 社会の現状に目を向けること、個人の発達と環境の影響、社会支援のあり方なども学習し立体的な「発達とは何か」の命題に取り組むことは、自分と向き合うこと、今後の自分の形を模索することです。</p> <p>■担当教員の連絡先 takaha-k@seisen.ac.jp</p>			

授 業 計 画 (シラバス)

【 授 業 科 目 名 】	家族看護学 (H31 年度開講)		
【 担 当 教 員 名 】	古株ひろみ、松本修一、泊祐子		
【開催時期】 1 年次後期	【授業形態】 講義	【必修/選択】 選択	【単位数】 2 単位

■概要

日本における家族を取り巻く社会の変動を理解し、家族員各々が成長するプロセスについて家族発達段階を踏まえてアセスメントできる能力を養う。そのため家族の状況を包括的にアセスメントする家族発達段階論、家族機能論諸理論を学ぶ。健康問題をもつ家族員がいる家族への看護過程の展開方法を家族アセスメント介入モデルを用いて教授する。(オムニバス方式)(古株ひろみ)

家族の変貌を家族形態、構成、人口構造、出生数等から検討し、家族が置かれている社会状況を理解する。家族諸理論(家族システム論、家族の発達段階論、家族ストレス論等)について概説し、家族を包括的にアセスメントできる知識を学ぶ。(松本修一)

家族の一員が健康問題を抱えることで状況的・発達の危機に直面している家族において、今までに経験した事例を通して『家族看護の果たす役割・機能とは何か』について理解し、家族看護理論を用いた看護介入について学修する。

■授業のねらい

自己の看護観や家族観を再認識するとともに、家族におこっている現象を社会の変化を踏まえながら、家族に関する諸理論を活用し、アセスメントする能力を養う。

■授業の到達目標

1. 家族看護学の理論について理解する。
2. 対象者のアセスメント、目標、看護過程、評価について理解し、家族看護実践の研究に活用ができる。

回	授業計画	備考 (担当教員)
1～2	オリエンテーション、家族看護学の目的、役割、家族という集団の特徴	泊祐子
3～4	家族の発達とシステムとしての家族	泊祐子
5～6	家族アセスメントモデル	古株ひろみ
7	家族と地域社会・文化的背景	古株ひろみ
8～9	家族看護過程 『渡辺式家族アセスメント/支援モデルについて』	松本修一
10～11	家族看護過程(1)演習	松本修一
12～13	家族看護過程(2)演習	松本修一
14～15	家族看護過程(3)演習、まとめ	松本修一

■成績評価の方法

課題レポート 50%、プレゼンテーション 30%、討論への参加態度 20%

■教科書・テキスト

山崎あけみ、原礼子編「家族看護学」19の臨床場面と8つの実践事例から考える 南山堂
 家族アセスメントに基づいた家族像の形成「家族看護」日本看護協会出版会 Vol. 22. No. 2. 2004

■参考書等

森山美智子編「ファミリーナーシングプラクティス 家族看護の理論と実践」医学書院
 柳原清子、渡辺裕子編「渡辺式家族アセスメント/支援モデルによる困った場面課題解決シート」医学書院

■履修上の注意点(履修要件)

特になし

■授業外学習の指示

都度指示

■オフィスアワー

授業前後

■担当教員からのメッセージ

臨床では、疾患などの原因を捉える時、患者-家族、患者-医療者、家族-医療者といった関係性を捉える時など分析対象によってももの捉え方を使いわけの必要があるように思います。家族をアセスメントするうえでは、円環的思考というものの捉え方が重要であり、演習の中で一緒に学んでいきたいと思ひます。(松本修一)

■担当教員の連絡先

松本修一 kyoumu@seisen.ac.jp (教務課)
 古株ひろみ lect446u@seisen.ac.jp

授 業 計 画 (シラバス)

【 授 業 科 目 名 】	原書講読Ⅱ		
【 担 当 教 員 名 】	磯邊厚子		
【開催時期】 1年次後期	【授業形態】 演習	【必修/選択】 選択	【単位数】 1単位
<p>■概要 海外の看護の専門雑誌を読み、英語論文の構成要素を学ぶと共に、購読する能力を養う。</p> <p>■授業のねらい American Journal of Nursing 2015 Aug p22-32, Original Research, 'I am a Nurse':Oral Histories of African Nurses の講読を行い、自己の研究に関連させて学ぶ。</p> <p>■授業の到達目標 1. 海外の原著論文を講読し、自己の研究課題に活用できる。 2. (可能な範囲で) 授業計画①～⑪の順に和訳する。 3. 論文の背景、研究方法など論文構成を学ぶ。</p>			
回	授業計画	備考 (担当教員)	
1	オリエンテーション ※授業計画について説明を行う。授業資料は本学で準備するが、和訳の準備は各自で行う。		
2	英語論文の抄録・本文の構成① ※タイトル、序章を和訳する。タイトルの意味と、研究目的・研究方法を知る。		
3	英語論文の抄録・本文の構成② ※研究テーマが生まれた国、地域、歴史を知る。地域及び著者の関心の背景を知る。		
4	American Journal of Nursing の購読① ※Introduction 及び Purpose を和訳する。		
5	American Journal of Nursing の購読② ※Background,Using oral sources を和訳する。※学生は予め、予習を行い、発表準備をしておく。		
6	American Journal of Nursing の購読③ ※Background,Using oral sources を和訳する。		
7	American Journal of Nursing の購読④ ※Background,Using oral sources を和訳する。		
8	American Journal of Nursing の購読⑤ ※Background,Using oral sourcesm, Our project began を和訳する。		
9	American Journal of Nursing の購読⑥ ※Background,Using oral sourcesm, Contextual background を和訳する。		
10	American Journal of Nursing の購読⑦ ※Methods;Historical methodology を和訳する。		
11	American Journal of Nursing の購読⑧ Methods;Historical methodology を和訳する。		
12	American Journal of Nursing の購読⑨ Sample,Procedure を和訳する。		
13	American Journal of Nursing の購読⑩ ※Results,Education を和訳する。		
14	American Journal of Nursing の購読⑪ Abstract を和訳する。		
15	各自の研究テーマに関する英語論文のプレゼンテーション 研究方法を自己の研究に関連させて、発表する。	論文の作成と投稿	
<p>■成績評価の方法 平常点 (100%) 授業への参加状況、プレゼンテーションから総合的に評価します。</p> <p>■教科書・テキスト American Journal of Nursing 2015 Aug,p22-32 (本学図書館に所蔵)</p> <p>■参考書等 適宜紹介します。</p> <p>■授業外学習の指示 和訳担当部分は、予習しておいて下さい。</p> <p>■オフィスアワー 授業後対応、もしくは学生の都合に合わせて随時 mail 対応します。</p> <p>■担当教員からのメッセージ 事前に配布された資料を文法に注意しながら、読んで下さい。</p> <p>■担当教員の連絡先 : isobe-a@seisen.ac.jp</p>			

授 業 計 画 (シラバス)			
【 授 業 科 目 名 】	リーダーシップ論		
【 担 当 教 員 名 】	木村知子 南谷志野		
【開催時期】1年次後期	【授業形態】講義	【必修/選択】必修	【単位数】1単位
<p>■概要 リーダーシップを発揮するために必要な理論について現場の実践活動と重ね合わせながら学修する。これらの理論や各自のこれまでの実践例を活用して、リーダーシップとは何か、リーダーに求められる能力とは何か、変革できるリーダーとは、について検証・考察する。</p> <p>また、自分自身のリーダーシップ経験の個人ワーク、グループディスカッション、現場管理者との意見交換等を通して、リーダーシップについて考究する。</p> <p>■授業のねらい 高度化、複雑化する医療の中で、看護マネジメント、看護組織、多職種チームにおける看護のリーダーシップ機能は重要である。看護現場における実践者としてのリーダー的役割を遂行するために、リーダーシップ論を学ぶ必要がある。</p> <p>■授業の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップに関連する理論を理解する。 ・看護実践現場におけるリーダーシップとマネジメントシップの現状と課題について理解する。 ・自身のリーダーシップについて考究する。 			
回	授業計画	備考 (担当教員)	
1	組織の中の人間行動	木村知子	
2	リーダーシップ理論の変遷	木村知子	
3.4	リーダーシップに関連する様々な理論	木村知子 南谷志野	
5.6	リーダーシップとマネジメントシップ	木村知子	
7.8	自身のリーダーシップのあり方	木村知子 南谷志野	
<p>■成績評価の方法 授業でのディスカッション、プレゼンテーション、レポート課題から総合的に評価する。</p> <p>■教科書・テキスト 別途授業のなかで指示する。</p> <p>■参考書等 金井壽宏 リーダーシップ入門 日本経済新聞社 スティーブンP.ロビンズ 組織行動のマネジメント ダイヤモンド社 他適宜授業のなかで紹介する。</p> <p>■履修上の注意点 (履修要件) 現在の職位のみにとらわれることのないように幅広くリーダーシップを捉えて、授業に臨んで下さい。</p> <p>■授業外学習の指示 自身のリーダーシップのあり方を常に考えて、理論立てて準備して下さい。</p> <p>■オフィスアワー 水曜日 17時以降</p> <p>■担当教員からのメッセージ 看護だけにとらわれることなく、幅広い知識を求めます。</p> <p>■担当教員の連絡先 kimura-t@seisen.ac.jp.</p>			